

# 特集・子どもの文学の一年

## ★ 総論

### 生への「信頼」を 「信頼」できるかたちで

奥山 恵

#### 1 ブックガイドの時代

二〇一六年も含め、ここ何年かで気になっているのは、子どもの本に関わるブックガイド的な本の出版や雑誌の特集が続いていることだ。たとえば、二〇〇九年に刊行された『「もの」から読み解く世界児童文学事典』（川端有子 水間千恵ほか 原書房）は一四年に『「場所」から読み解く……』と続き、二〇一一年刊行の『多文化に出会うブックガイド』（読書工房）も昨年増刷され、いずれも続編の計画を耳にす

る。二〇一五年には、ミシマ社から『THE BOOKS green 365人の本屋さんが中高生に心から推す「この一冊」』が、ポプラ社から『今すぐ読みたい！ 10代のためのYAブックガイド150!』（金原瑞人 ひこ・田中監修）が出て、書店のフェアでも目にした。

こうした流れの中で、二〇一六年は、『生きていらん、大丈夫 子どもと本と、出会いをつむぐ』（佐々波幸子 かがわ出版）と『明日の平和をさがす本 戦争と平和を考える 絵本からYAまで300』（宇野和美 さくまゆみこ 土居安子 西山利佳 野上暁編著 岩崎書店）が印象に残っている。前者は、朝日新聞記者である著者の、子どもの本にまつわる活動や作家の取材をまとめたもので、とりあげた本についての情報も整理されている。後者は、「戦争と平和」に関わる多様なジャンルの本を一ページ一冊で紹介。二〇〇〇年以降刊行の本に限っていることと、「戦争」に限らず複数の「キーワード」が挙げられているのがユニークだ。

個人の著作では、六〇〜七〇年代頃の読書体験を振り返